

エルマノ通信

第9号

発効日：2019年7月1日
発行元：すばる中央薬局 大船店

すばる中央薬局笛田店 管理薬剤師新井です。
紫外線と湿気の気になる季節ですね、皆さんいかがお過ごですか?
この季節になるとシップを使っている方から皮膚が赤くなったり、痒くなったりしたとご相談を受けることが多くなります。
そこで今回は身近なお薬であるシップについてお話しします。

シップの使用感について

●パップ剤

シップと聞いてまず思いつくものです。
白いフィルト状の布に水分を多く含んだ基材が塗ってあります。
そのため患部に貼ったときにヒヤッとなります。

●ラスター剤(テープ剤)

茶色くて薄い貼り薬です。
基材に水分を含んでいないため貼ったときにヒヤッとはしません。
肌に密着させるために粘着を使っているためパップ剤よりもはがれにくいのが特徴です。

シップの効果と使い分けについて 大きく分けて温感と冷感があります。

●冷シップを用いた冷却療法

打撲、捻挫、骨折、関節炎などで、熱や腫れなど炎症を伴った急性期に対して効果的です。

●温シップを用いた温熱療法

打撲、捻挫、筋肉痛、関節炎などで、熱や腫れがひいた後の慢性期に対して効果的です。
また、腰痛や肩こりに対しても血流改善作用により効果があります。

温感タイプは入浴により強い痛みや刺激を感じることがあるので、入浴1時間前にははがし、入浴後30分くらいしてから貼りましょう。

シップの成分を有効的に患部に届けるためには皮膚への密着が欠かせません。

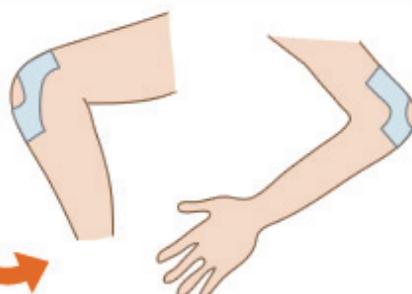
膝や手首など関節部分に貼るときに、シップにひと手間加えるだけではがれにくくなります。

シップにはさみを入れるときは裏側のライナーをはがさずに、切れ込みを入れた後ライナーをはがして患部に貼りましょう。

はがれやすい関節部分へのシップの上手な貼り方



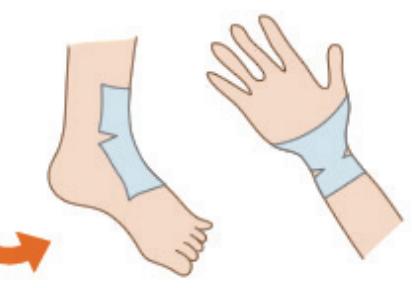
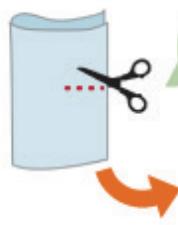
ひじ・ひざ



足首



手首・足首



裏面に続く

